

資料 4

1 地域間幹線系統確保維持計画

| 路線名 | 運行事業者 | 運行区間 | 運行距離(Km) | 運行日 | 日運行回数 | 輸送人員(人) | | |
|-----------------|---------|---------------------|--------------|-----------|----------|---------|---------|---------|
| | | | | | | H23 | H24 | H25 |
| 菅平高原線 | 上田バス(株) | 上田駅～西菅平 大松 | 29.2 31.7 | 毎日運行 | 18 3 | 91,587 | 92,442 | 94,660 |
| 真田線 | 上田バス(株) | 上田駅～真田 | 11.9 | 毎日運行 | 16 | 32,451 | 29,329 | 28,139 |
| 真田自治センター 入口線 | 上田バス(株) | 上田駅～真田自治センター入口 | 10.5 | 平日・土曜のみ運行 | 30 | 41,687 | 39,334 | 36,054 |
| 鹿教湯線 | 千曲バス(株) | 下秋和～鹿教湯車庫 下秋和～丸子 | 32.4 16.7 | 毎日運行 | 25 16 | 237,465 | 233,426 | 249,612 |
| 青木線 | 千曲バス(株) | 下秋和～青木 | 16.4 | 毎日運行 | 32 | 168,336 | 168,713 | 178,134 |
| 佐久上田線 | 千曲バス(株) | 下秋和～勝間 | 42.4 | 平日のみ運行 | 14 | 359,023 | 337,000 | 309,217 |

2 地域間幹線系統車両取得計画

| 路線名 | 運行事業者 | 運行区間 | 運行距離(Km) | 運行日 | 日運行回数 | 輸送人員(人) | | |
|-------|---------|---------------------|--------------|------|----------|---------|---------|---------|
| | | | | | | H23 | H24 | H25 |
| 菅平高原線 | 上田バス(株) | 上田駅～西菅平 大松 | 29.2 31.7 | 毎日運行 | 18 3 | 91,587 | 92,442 | 94,660 |
| 鹿教湯線 | 千曲バス(株) | 下秋和～鹿教湯車庫 下秋和～丸子 | 32.4 16.7 | 毎日運行 | 25 16 | 237,465 | 233,426 | 249,612 |

地域間幹線系統別確保維持計画

平成26年5月27日

(住所) 上田市常田1-3-24

(名称) 上田バス株式会社

(代表者名) 遠藤 孝 印

| 1. 幹線系統名、区間及び計画期間 | |
|-------------------|-------------------------|
| 系統名 | : 菅平高原線 |
| 運行区間 | : 上田駅 ~ 菅平高原西首平・大松 |
| 計画期間 | : 平成26年10月1日~平成29年9月30日 |

| 2. 幹線系統の運行に係る目的・必要性 (生活交通路線である理由・路線の状況) |
|---|
| 上田市住民の通学、通院、買い物等のため |

| 3. 幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果 |
|--|
| (1) 運行の目標 |
| 輸送量44.8人を維持する。 |
| (2) 運行による効果 |
| 菅平高原線を維持することにより、住民の日常生活に絶対必要な移動手段を確保することができ、地域の交通ネットワークにおける幹線の役割を維持する。また収支改善に努めることにより計画期間中継続して運行し、公共交通としての役割を担うことができる。 |

| 4. 費用負担額 | | 負担額 | | | |
|--------------|--------------|-------------|-------------|-----|-----|
| 補助対象期間 | 欠損見込額* | 国 | 県 | 市町村 | 事業者 |
| H26.10~H27.9 | 15,055,824 円 | 7,527,000 円 | 7,527,000 円 | 円 | 円 |
| H27.10~H28.9 | 15,105,970 円 | 7,552,000 円 | 7,552,000 円 | 円 | 円 |
| H29.10~H30.9 | 15,072,040 円 | 7,536,000 円 | 7,536,000 円 | 円 | 円 |

*欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

5. 収益改善のために行った取組状況

真田地域公共交通利用促進協議会の発足により、より多くの住民にバス利用についての啓蒙活動を行うことができた。地元小・中学生対象にバスの乗り方教室を開催した。ギャラリーバス、七夕バス、クリスマスイベント、真田祭りでの乗車体験、夏休みキッズスタンプラリー等を実施した。車内では、親切運動を行い顧客サービスの向上を図った。

6. 今後の収益改善に向けた取組

上田市及び真田地域公共交通利用促進協議会と合同で路線バス利用促進に向け広報活動を行う。

7. 広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について

【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表3に定める広域行政圏以外へアクセスする路線の場合に記入】

【本計画に関する担当者・連絡先】

| | |
|----------|-----------------------|
| (住 所) | 上田市常田 1-3-24 |
| (所 属) | |
| (氏 名) | 舟見哲也 |
| (電 話) | 0268-22-1504 |
| (F A X) | 0268-25-5122 |
| (e-mail) | t.funami@uedabu.co.jp |

地域間幹線系統別確保維持計画

平成26年5月27日

(住所) 上田市常田1-3-24

(名称) 上田バス株式会社

(代表者名) 遠藤 孝 印

1 幹線系統名、区間及び計画期間

系統名 : 真田線

運行区間 : 上田駅 ~ 真田

計画期間 : 平成26年10月1日~平成29年9月30日

2 幹線系統の運行に係る目的・必要性(生活交通路線である理由・路線の状況)

上田市住民の通学、通院、買い物等のため

3 幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果

(1) 運行の目標

輸送量18.8人を維持する。

(2) 運行による効果

真田線を維持することにより、住民の日常生活に絶対必要な移動手段を確保することができ、地域の交通ネットワークにおける幹線の役割を維持する。また収支改善に努めることにより計画期間中継続して運行し、公共交通としての役割を担うことができる。

4 費用負担額

| 補助対象期間 | 欠損見込額* | 負担額 | | | |
|--------------|--------------|-------------|-------------|-----|-----|
| | | 国 | 県 | 市町村 | 事業者 |
| H26.10~H27.9 | 10,543,909 円 | 2,054,000 円 | 2,054,000 円 | 円 | 円 |
| H27.10~H28.9 | 10,604,941 円 | 2,066,000 円 | 2,066,000 円 | 円 | 円 |
| H29.10~H30.9 | 10,573,205 円 | 2,059,000 円 | 2,059,000 円 | 円 | 円 |

*欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

5. 収益改善のために行った取組状況

真田地域公共交通利用促進協議会の発足により、より多くの住民にバス利用についての啓蒙活動を行うことができた。地元小・中学生対象にバスの乗り方教室を開催した。ギャラリーバス、セタバス、クリスマスイベント、真田祭りでの乗車体験、夏休みキッズスタンプラリー等を実施した。車内では、親切運動を行い顧客サービスの向上を図った。

6. 今後の収益改善に向けた取組

上田市及び真田地域公共交通利用促進協議会と合同で路線バス利用促進に向け広報活動を行う。

7. 広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について

【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表3に定める広域行政圏以外へアクセスする路線の場合に記入】

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 上田市常田 1-3-24

(所 属)

(氏 名) 舟見哲也

(電 話) 0268-22-1504

(F A X) 0268-25-5122

(e-mail) t.funami@uedabu.co.jp

地域間幹線系統別確保維持計画

平成26年5月27日

(住所) 上田市常田1-3-24

(名称) 上田バス株式会社

(代表者名) 遠藤 孝 印

| 1. 幹線系統名、区間及び計画期間 | |
|-------------------|-------------------------|
| 系統名 | : 真田自治センター入口線 |
| 運行区間 | : 上田駅 ~ 真田自治センター入口 |
| 計画期間 | : 平成26年10月1日~平成29年9月30日 |

| 2. 幹線系統の運行に係る目的・必要性 (生活交通路線である理由・路線の状況) |
|---|
| 上田市住民の通学、通院、買い物等のため |

| 3. 幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果 |
|--|
| (1) 運行の目標 |
| 輸送量31.9人を維持する。 |
| (2) 運行による効果 |
| 真田自治センター入口線を維持することにより、住民の日常生活に絶対必要な移動手段を確保することができ、地域の交通ネットワークにおける幹線の役割を維持する。また収支改善に努めることにより計画期間中継続して運行し、公共交通としての役割を担うことができる。 |

| 4. 費用負担額 | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|-------------|-----|-----|
| 補助対象期間 | 欠損見込額* | 負担額 | | | |
| | | 国 | 県 | 市町村 | 事業者 |
| H26.10~H27.9 | 10,625,904 円 | 3,610,000 円 | 3,610,000 円 | 円 | 円 |
| H27.10~H28.9 | 10,733,483 円 | 3,646,000 円 | 3,646,000 円 | 円 | 円 |
| H29.10~H30.9 | 10,700,515 円 | 3,635,000 円 | 3,635,000 円 | 円 | 円 |

*欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

5. 収益改善のために行った取組状況

真田地域公共交通利用促進協議会の発足により、より多くの住民にバス利用についての啓蒙活動を行うことができた。地元小・中学生対象にバスの乗り方教室を開催した。ギャラリーバス、セタバス、クリスマスイベント、真田祭りでの乗車体験、夏休みキッズスタンプラリー等を実施した。車内では、親切運動を行い顧客サービスの向上を図った。

6. 今後の収益改善に向けた取組

上田市及び真田地域公共交通利用促進協議会と合同で路線バス利用促進に向け広報活動を行う。

7. 広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について

【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表3に定める広域行政圏以外へアクセスする路線の場合に記入】

【本計画に関する担当者・連絡先】

| | |
|----------|-----------------------|
| (住 所) | 上田市常田 1-3-24 |
| (所 属) | |
| (氏 名) | 舟見 哲也 |
| (電 話) | 0268-22-1504 |
| (F A X) | 0268-25-5122 |
| (e-mail) | t.funami@uedabu.co.jp |

地域間幹線系統車両取得計画

平成26年5月27日

(住所) 上田市常田1丁目3番24号
 (名称) 上田バス株式会社
 (代表者名) 代表取締役 遠藤 孝 印

1. 新規車両の導入を予定する幹線系統名、区間及び導入予定年月

系 統 名 : 菅平高原線
 運 行 区 間 : 上田駅 ~ 西菅平または大松
 導入予定年月 : 平成27年3月

2. 車両の取得に係る目的・必要性

菅平高原線は上田市住民の通学、通院、買い物等に必要路線であるが、車両が老朽化していることから新車を導入し、路線の維持及び安全性の向上を図りたい。

3. 車両の取得に係る定量的な目標及び効果

(1) 新規車両導入に係る目標

運行車両燃費を1リットルあたり4km以上とする

(2) 新規車両導入に係る効果

車両を更新することにより菅平高原線の路線を維持し、安全運行を確保する。

4. 車両の取得の概要

| | |
|---------|--------------------|
| 車両取得台数 | 1 台 |
| 車両購入予定費 | 22,000,000円(消費税除く) |

5. 費用負担額(車両減価償却費+金融費用)

| | 国 | 県 | その他 | 事業者 |
|-----|------------|------------|-----|-----|
| 初年度 | 848,000円 | 848,000円 | 円 | 円 |
| 2年目 | 1,428,000円 | 1,428,000円 | 円 | 円 |
| 3年目 | 1,428,000円 | 1,428,000円 | 円 | 円 |
| 4年目 | 1,428,000円 | 1,428,000円 | 円 | 円 |
| 5年目 | 1,428,000円 | 1,428,000円 | 円 | 円 |
| 6年目 | 544,000円 | 544,000円 | 円 | 円 |
| 合計 | 7,104,000円 | 7,104,000円 | 円 | 円 |

【本計画に関する担当者・連絡先】

| | |
|----------|---------------|
| (住 所) | 上田市常田1丁目3番24号 |
| (所 属) | |
| (氏 名) | 舟見哲也 |
| (電 話) | 0268-22-1504 |
| (F A X) | 0268-25-5122 |
| (e-mail) | |

地域間幹線系統別確保維持計画

平成26年5月27日

(住所) 長野県佐久市野沢20番地
 (名称) 千曲バス株式会社
 (代表者名) 代表取締役 高野 公秀

1. 幹線系統名、区間及び計画期間

系統名 : 鹿教湯線
 運行区間 : 鹿教湯車庫～下秋和
 計画期間 : 平成26年10月1日～平成29年9月30日

2. 幹線系統の運行に係る目的・必要性(生活交通路線である理由・路線の状況)

上田市公共交通活性化協議会において生活交通路線として承認を頂いております鹿教湯線(鹿教湯～下秋和)は、鹿教湯病院・丸子中央病院・大屋駅・上田駅・高等学校等への通院・通勤・通学の交通手段として、車を運転できない高齢者等を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能している。

しかしながら、人口減少と自家用車の普及により、鹿教湯線の公共交通機関の利用者は減少を続けており、当該路線は収支悪化等により様々な問題を抱えていたが、25年10月からの運賃低減施策により、バス利用者は着実に増えていることから、今後も地域住民の通院・通学・買い物を中心とした生活に不可欠な当該路線を存続していくことが必要である。

このため、地域公共交通確保維持事業により、鹿教湯線を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく。

3. 幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果

(1) 運行の目標

鹿教湯線の運行コストを地域キロ当り標準経常費用414.81円以内とする。
 鹿教湯線の輸送量を65.00以上で維持する。

(2) 運行による効果

鹿教湯線を維持することにより、上田市の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。また、幹線・支線のネットワークが連携することで、効率的な運行体系が実現できる。さらには、外出促進・地域活性化にもつながる。

| 4. 費用負担額 | | | | | |
|----------------|--------------|--------------|--------------|-----|-------|
| 補助対象期間 | 欠損見込額※ | 負担額 | | | |
| | | 国 | 県 | 市町村 | 事業者 |
| H26. 10～H27. 9 | 23,855,205 円 | 11,927,500 円 | 11,927,500 円 | 円 | 205 円 |
| H27. 10～H28. 9 | 23,920,801 円 | 11,960,000 円 | 11,960,000 円 | 円 | 801 円 |
| H28. 10～H29. 9 | 23,855,205 円 | 11,927,500 円 | 11,927,500 円 | 円 | 205 円 |

※欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

| 5. 収益改善のために行った取組状況 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・キッズパス施策 ・利用者からの声を反映させた適正なダイヤへの変更（中央病院乗り入れ） ・時刻表の配布（無料配布） ・市内運賃低減バス施策 |

| 6. 今後の収益改善に向けた取組 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・市内運賃低減バス運行計画 ・キッズパス施策の継続実施 |

| 7. 広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について |
|--|
| 【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表3に定める広域行政圏以外へアクセスする路線の場合に記入】 |

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 長野県小諸市加増 581-1

(所 属) 千曲バス株式会社

(氏 名) 三浦 裕

(電 話) 0267-26-2600

(F A X) 0267-24-2610

(e-mail) eigyo@chikuma-bus.co.jp

地域間幹線系統別確保維持計画

平成 26 年 5 月 27 日

(住所) 長野県佐久市野沢 20 番地
 (名称) 千曲バス株式会社
 (代表者名) 代表取締役 高野 公秀

1. 幹線系統名、区間及び計画期間

系 統 名 : 鹿教湯線
 運 行 区 間 : 丸子～下秋和
 計 画 期 間 : 平成 26 年 10 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日

2. 幹線系統の運行に係る目的・必要性 (生活交通路線である理由・路線の状況)

上田市公共交通活性化協議会において生活交通路線として承認を頂いております鹿教湯線(丸子～下秋和)は、丸子中央病院・大屋駅・上田駅・高等学校等への通院・通勤・通学の交通手段として、車を運転できない高齢者等を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能している。

しかしながら、人口減少と自家用車の普及により、鹿教湯線の公共交通機関の利用者は減少を続けており、当該路線は収支悪化等により様々な問題を抱えていたが、25年10月からの運賃低減施策により、バス利用者は着実に増えていることから、今後も地域住民の通院・通学・買い物を中心とした生活に不可欠な当該路線を存続していくことが必要である。

このため、地域公共交通確保維持事業により、鹿教湯線を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく。

3. 幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果

(1) 運行の目標

鹿教湯線の運行コストを地域キロ当り標準経常費用 414.81 円以内とする。
 鹿教湯線の輸送量を 60.00 以上で維持する。

(2) 運行による効果

鹿教湯線を維持することにより、上田市の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保される。また、幹線・支線のネットワークが連携することで、効率的な運行体系が実現できる。さらには、外出促進・地域活性化にもつながる。

| 4. 費用負担額 | | | | | |
|----------------|------------|------------|------------|-----|------|
| 補助対象期間 | 欠損見込額* | 負担額 | | | |
| | | 国 | 県 | 市町村 | 事業者 |
| H26. 10～H27. 9 | 9,462,757円 | 4,731,000円 | 4,731,000円 | 円 | 757円 |
| H27. 10～H28. 9 | 9,497,332円 | 4,748,500円 | 4,748,500円 | 円 | 332円 |
| H28. 10～H29. 9 | 9,487,850円 | 4,743,500円 | 4,743,500円 | 円 | 850円 |

※欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

| 5. 収益改善のために行った取組状況 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・キッズパス施策 ・利用者からの声を反映させた適正なダイヤへの変更（中央病院乗り入れ） ・時刻表の配布（無料配布） ・市内運賃低減施策 |

| 6. 今後の収益改善に向けた取組 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・運賃低減バス運行計画 ・キッズパス施策の継続実施 ・下秋和発の最終便を21時28分（上田駅発21時40分）に設定 |

| 7. 広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について |
|--|
| 【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表3に定める広域行政圏以外へアクセスする路線の場合に記入】 |

【本計画に関する担当者・連絡先】

（住 所）長野県小諸市加増 581-1

（所 属）千曲バス株式会社

（氏 名）三浦 裕

（電 話）0267-26-2600

（FAX）0267-24-2610

（e-mail）eigyo@chikuma-bus.co.jp

地域間幹線系統別確保維持計画

平成26年5月27日

(住所) 長野県佐久市野沢20番地
 (名称) 千曲バス株式会社
 (代表者名) 代表取締役 高野 公秀

1. 幹線系統名、区間及び計画期間

系統名 : 青木線
 運行区間 : 下秋和～青木
 計画期間 : 平成26年10月1日～平成29年9月30日

2. 幹線系統の運行に係る目的・必要性(生活交通路線である理由・路線の状況)

上田市公共交通活性化協議会において生活交通路線として承認を頂いております青木線(下秋和～青木)は、上田駅・高等学校等への通院・通勤・通学の交通手段として、車を運転できない高齢者等を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能している。

しかしながら、人口減少と自家用車の普及により、青木線の公共交通機関の利用者は減少を続けており、当該路線は収支悪化等により様々な問題を抱えていたが、25年10月からの運賃低減施策により、バス利用者は着実に増えていることから、今後も地域住民の通院・通学・買い物を中心とした生活に不可欠な当該路線を存続していくことが必要である。

このため、平成26年度においても地域公共交通確保維持事業により、青木線を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく。

3. 幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果

(1) 運行の目標

青木の運行コストを地域キロ当り標準経常費用414.81円以内とする。
 青木線の輸送量を60.00以上で維持する。

(2) 運行による効果

青木線を維持することにより、上田市の高齢者等の日常生活に必要な移動手段が確保される。また、幹線・支線のネットワークが連携することで、効率的な運行体系が実現できる。さらには、外出促進・地域活性化にもつながる。

| 4 費用負担額 | | | | | |
|--------------|-------------|------------|------------|-----|------|
| 補助対象期間 | 欠損見込額※ | 負担額 | | | |
| | | 国 | 県 | 市町村 | 事業者 |
| H26.10～H27.9 | 11,701,898円 | 5,850,500円 | 5,850,500円 | 円 | 898円 |
| H27.10～H28.9 | 11,734,534円 | 5,867,000円 | 5,867,000円 | 円 | 534円 |
| H28.10～H29.9 | 11,703,317円 | 5,851,500円 | 5,851,500円 | 円 | 317円 |

※欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

| 5 収益改善のために行った取組状況 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・キッズバス施策 ・利用者からの声を反映させた適正なダイヤへの変更 ・時刻表の配布（無料配布） ・市内運賃低減バス施策 |

| 6 今後の収益改善に向けた取組 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・青木村と連携した運賃低減バス運行計画 ・キッズバス施策の継続実施 ・下秋和発の最終便を21時23分（上田駅発21時35分）に設定 |

| 7 広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について |
|--|
| 【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表3に定める広域行政圏以外へアクセスする路線の場合に記入】 |

【本計画に関する担当者・連絡先】

（住 所）長野県小諸市加増 581-1
 （所 属）千曲バス株式会社
 （氏 名）三浦 裕
 （電 話）0267-26-2600
 （F A X）0267-24-2610
 （e-mail）eigyo@chikuma-bus.co.jp

地域間幹線系統別確保維持計画

平成26年5月27日

(住所) 長野県佐久市野沢20番地
 (名称) 千曲バス株式会社
 (代表者名) 代表取締役 高野 公秀

1. 幹線系統名、区間及び計画期間

系 統 名 : 佐久上田線
 運 行 区 間 : 勝間～下秋和
 計 画 期 間 : 平成26年10月1日～平成29年9月30日

2. 幹線系統の運行に係る目的・必要性（生活交通路線である理由・路線の状況）

上田市公共交通活性化協議会において生活交通路線として承認を頂いております佐久上田線(勝間～下秋和)は、佐久総合病院・佐久医療センター・小諸厚生病院・佐久平駅・上田駅・高等学校等への通院・通勤・通学の交通手段として、車を運転できない高齢者等を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能している。

しかしながら、人口減少と自家用車の普及により、佐久上田線の公共交通機関の利用者は減少を続けており、当該路線は収支悪化等により様々な問題を抱えている。

地域住民の通院・通学・買い物を中心とした生活に不可欠な当該路線を存続していくためには、更なる経費削減が必要であり、利用者の少ない土日祝日の運行を休止してでも当該路線を存続していくことが必要である。

このため、地域公共交通確保維持事業により、佐久上田線を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく。

3. 幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果

(1) 運行の目標

佐久上田線の運行コストを地域キロ当り標準経常費用414.81円以内とする。
 佐久上田線の輸送量を15.00以上で維持する。

(2) 運行による効果

佐久上田線を維持することにより、上田市の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。また、幹線・支線のネットワークが連携することで、効率的な運行体系が実現できる。さらには、外出促進・地域活性化にもつながる。

| 4. 費用負担額 | | | | | |
|--------------|-------------|------------|------------|-----|------------|
| 補助対象期間 | 欠損見込額* | 負担額 | | | |
| | | 国 | 県 | 市町村 | 事業者 |
| H26.10～H27.9 | 20,463,756円 | 8,526,500円 | 8,526,500円 | 円 | 3,410,756円 |
| H27.10～H28.9 | 20,549,021円 | 8,562,000円 | 8,562,000円 | 円 | 3,425,021円 |
| H28.10～H29.9 | 20,549,021円 | 8,562,000円 | 8,562,000円 | 円 | 3,425,021円 |

※欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

| 5. 収益改善のために行った取組状況 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・キッズパス施策 ・利用者からの声を反映させた適正なダイヤへの変更（佐久医療センター乗り入れ） ・時刻表の配布（無料配布） ・市内運賃低減バス施策 |

| 6. 今後の収益改善に向けた取組 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・運賃低減バス運行計画 ・キッズパス施策の継続実施 ・佐久上田線の土日祝日の運休による経費削減 |

| 7. 広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について |
|--|
| 【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表3に定める広域行政圏以外へアクセスする路線の場合に記入】 |

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 長野県小諸市加増 581-1

(所 属) 千曲バス株式会社

(氏 名) 三浦 裕

(電 話) 0267-26-2600

(F A X) 0267-24-2610

(e-mail) eigyo@chikuma-bus.co.jp

地域間幹線系統車両取得計画

平成26年5月27日

(住所) 長野県佐久市野沢20番地
 (名称) 千曲バス株式会社
 (代表者名) 代表取締役 高野 公秀

| 1. 新規車両の導入を予定する幹線系統名、区間及び導入予定年月 | | | | |
|--|-------------|------------|-----|-----|
| 系 統 名 | 鹿教湯線 | | | |
| 運 行 区 間 | 鹿教湯車庫～下秋和 | | | |
| 導入予定年月 | 平成27年6月 | | | |
| 2. 車両の取得に係る目的・必要性 | | | | |
| 鹿教湯線に使用中の車両1台(大型車)については、年式も古く、鹿教湯病院や丸子中央病院に通院されるお客様が多いなか車椅子に対応した車両ではないので、低床型(ワンステップ・スロープ付)車両で引き続き安全運行を図りたい。(初年度) | | | | |
| 3. 車両の取得に係る定量的な目標及び効果 | | | | |
| (1) 新規車両導入に係る目標 | | | | |
| 鹿教湯線(鹿教湯～下秋和)の輸送量414.81以上を維持する。 鹿教湯線(鹿教湯～下秋和)の輸送量を65.00以上とする。 | | | | |
| (2) 新規車両導入に係る効果 | | | | |
| 高齢者や障害者にとって乗りやすい車両になり、利便性・安全性が向上する | | | | |
| 4. 車両の取得の概要 | | | | |
| 車両取得台数 | 1台 | | | |
| 車両購入予定費 | 23,200,000円 | | | |
| 5. 費用負担額(車両減価償却費+金融費用) | | | | |
| | 国 | 県 | その他 | 事業者 |
| 初年度 | 929,000円 | 929,000円 | 円 | 円 |
| 2年目 | 2,405,000円 | 2,405,000円 | 円 | 円 |
| 3年目 | 1,473,000円 | 1,473,000円 | 円 | 円 |
| 4年目 | 899,000円 | 899,000円 | 円 | 円 |

| | | | | |
|-----|----------|----------|---|---|
| 5年目 | 657,000円 | 657,000円 | 円 | 円 |
| 6年目 | 618,000円 | 618,000円 | 円 | 円 |
| 合計 | 円 | 円 | 円 | 円 |

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 長野県小諸市加増 581-1
(所 属) 千曲バス株式会社
(氏 名) 三浦 裕
(電 話) 0267-26-2600
(FAX) 0267-24-2610
(e-mail) eigyo@chikuma-bus.co.jp